

校長室の窓

平成28年10月28日

第14号

成長という名の奇跡を

— 就学時健診のごあいさつ より

いよいよ、来年4月から義務教育がスタートします。今日の説明会を受けて、入学準備を始めるご家庭も多いかと思います。ランドセルに筆箱、鉛筆に消しゴムと、どれをとってもお子様の夢が詰まっています。そして、ご家庭でもランドセルを背負ってはしゃぐお子様の姿に、きっと小学校生活への夢をおもちになるはずです。どうぞお子様といっしょに小学校生活をお楽しみください。

さて、昨日、PTA給食試食会を行いました。そのアンケートに「牛乳が多くて飲めない」というご意見がありました。確かに1本200ミリリットルの牛乳は、入学したての1年生にとっては、それだけでおなかいっぱいになる量です。牛乳の嫌いな子にとってはなおさらです。半分も飲めない子がいます。ひとくちふたくちしか飲めない子もいます。そんなとき担任は、こんな声がけをしています。「ひとくち飲めたね。えらいね。」「今日は半分も飲んだね。すごいね。」「やったー。全部飲んだね。大きくなれるね。」できたことを褒めて褒めて、できたという達成感をもたせます。この達成感の積み重ねが子どもを大きく成長させると 생각합니다。

今、「成長」という言葉を申し上げました。わたしは「成長」とは「奇跡」の積み重ねではないかと考えることがあります。はいはいしていた赤ちゃんがあるときつかまり立ちする。つかまり立ちしていた子が手を離して一歩踏み出す。泣くことしかできなかった子が、片言の言葉を話す。自分でトイレに行くことができるようになる。数を数えることができるようになる。文字を書けるようになる。自転車に乗れるようになる。みなさんはその奇跡の瞬間を目の当たりにされたはずです。そのとき、「できた、すごいね。」とご家族で喜び合ったことを、まだ、ありありとご記憶なのではないでしょうか。

あま市では幼稚園・保育園と小学校との連携を進めています。先日も保育園の運動会でお子様の立派な演技を拝見いたしました。園では、走ることもおぼつかない幼児に、根気よく指導を続けることでだれもが認める演技をさせるという奇跡を起こしてくださいました。園の先生方を含めて、私たち教師はそういう小さな奇跡を積み重ねたいと願っています。自分のことが自分でできるようになること。話し言葉や書き言葉を自由に使いこなすことができるようにすること。数の意味を理解し、正しく操作できるようにすること。なによりも、社会のなかでひとり立ちできる基本的な力が身につくこと。私たちは目の前の児童に成長という名の奇跡が起こることを信じています。

そこで、一つだけお願いがあります。ご家庭でも、まずお母さんが聞き上手になってください。「へー、そんなことがあったの。」多少大げさなリアクションをしてください。適当に聞いていると、「どうせ適当に聞いている」と話さなくなってしまう。「こんなこと勉強したよ」「先生がこんなこと言ってたよ」など、よいことも、そうでないこともよくわかっていただけます。どうか、お子様の話に耳を傾けてください。

「かえるの子はかえる」という身もふたもないことわざがあります。でも、だれでも、自分の子が自分を超越する存在になることを願わないはずはありません。

4月からの6年間で、私たちといっしょに奇跡を起こしましょう。

